

# 誰もが一緒に楽しめるスポーツを！

岡山県立勝間田高等学校 2年 山下篤哉・入木凌駆

## 1. 研究の目的

「人と交流する」ことの大切さを実感



「誰もがいっしょに楽しめる」場づくりの提案

「ユニバーサルスポーツ」を取り上げよう！

## 2. 研究の方法・内容

- ① いろいろなユニバーサルスポーツを体験する。
- ② ユニバーサルスポーツを通じて交流する。
- ③ 自分たちで新たなルールや新しいスポーツ（あそび）を考案する。

## ユニバーサルスポーツとは？

年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、皆が一緒に楽しむことができるスポーツ。

- ① 柔軟なルールでさまざまな人の参加が可能である。
- ② 誰にでも勝つチャンスがある。
- ③ ルールがシンプルで誰でも理解できる。
- ④ 身体的な負担が少なく、安全性が確保できる

## ①体験したユニバーサルスポーツ → ②ユニバーサルスポーツを通じて交流



ボッチャ



囲碁ボール

### ①小学生との交流【ボッチャ】

勝央町公民館の方々の御協力のもと実施。

### ②地域高齢者の方々と交流【囲碁ボール】

勝央町社会福祉協議会の皆さんの御協力のもと実施。

### 高校生の感想・改良点【ボッチャ】

- ◇小学生が喜んでくれ、楽しく参加してくれた。
  - ◇ルール（分かりにくい点など）も一緒にゲームを進める中で理解してくれた。
- ⇒得点の付け方に工夫が必要  
コンパスのような「計測器」で分かりやすく！

### 高校生が考えた改良点【囲碁ボール】

1. マットの周りに囲いを作り、その壁に当ててボールを跳ね返らせるようにすれば、さらに攻撃や展開が考えられるのではないかな？
2. ボールが重過ぎないかな？軽量化してもよいのでは？
3. 車いすの方が座って打てるよう、スティックを改良できないかな？

## ③新たなルールや新しいスポーツの考案

さまざまなユニバーサルスポーツを体験し、また異年齢の方々と交流から、新たなルール、用具の開発、新種目の開発に取り組むことに挑戦！

## ユニバーサルスポーツとSDGsの関係性

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」社会を実現するために、ユニバーサルスポーツはあらゆる分野において効果を発揮すると期待されている。

## 3. 考察

集団の違い（年齢など）で、ゲームの「面白さ」が変わる。自然に周りへの配慮・気配りの大切さに気づけた。参加した皆が、楽しく笑顔になれる空間・場の提供ができた。



人類共通の文化・共生社会実現への手がかり  
誰もが過ごしやすい社会づくりに貢献していきたい！